

式 辞

甲山に降り注ぐ日差しが日に日に暖かくなり、春の訪れを予感する今日の佳き日、兵庫県立西宮甲山高等学校第三十九回卒業証書授与式を挙げていきますことは誠に大きな喜びであります。本日、PTA会長様をはじめ、多数の保護者の皆様のご臨席を賜り本校の教職員を代表して厚く御礼申し上げます。そして、保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業を心からお祝い申し上げます。

さて、ただ今、本校の卒業証書を授与しました118名の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの在学中の努力と精進に対して心から賛辞をおくります。

皆さんにとって、甲山高校での高校生活3年間は、コロナ禍の影響がまだ残り、何かと制約の多いことだったと思います。そんな中でも、勉強、学校行事、生徒会活動、部活動等、いろいろなことに取り組んできました。悩んだり、つらかったり、喜んだり、そして笑ったり、様々なことがあったことと思います。とりわけ、悩みやつらさを克服して、今日のこの日を迎えられることに、心から祝福の拍手を送るとともに、家族や友人、その他多くの人々の温かい励ましと支援があって、この日を迎えられることを決して忘れないでください。

皆さんが高校生活を送ったこの3年間様々なニュースが国内外を問わずありました。中でも、1月1日に石川県能登半島沖で発生した地震では、能登半島やその周辺地域の方々に、大きな被害が発生し、今もって、避難所で生活されている方々がおられることが報告されています。被害に遭われた方々には心からお見舞いを申し上げます。

昨今はAIをはじめとした情報科学分野において、めまぐるしく技術が進歩し便利になる一方で、それらを悪用したいろいろなフェイクニュースも存在します。何が正しくて、何が正しくないか、何が信頼できる情報で、何がいい加減な情報か、見極めようとする姿勢と行動力を持ち続けることが大切です。皆さんは、SNSの使い方については、これまで多くの場面でその利便性と間違った使い方について学ぶ機会があったと思います。報道等を見ていると、若者の中には、未だにその使い方を誤り、気がつくとも犯罪やトラブルなど取り返しのつかないことに手を染めていたというニュースに接することがあります。周囲に迷惑がかかるような行為を平然と行い、動画を投稿し拡散させ、多額の賠償金を請求されたり、投稿者が批判にさらされたりといったことが見受けられます。闇バイトへの勧誘や、違法薬物への関与などもあります。甘い言葉やその場の雰囲気流されるのではなく、自身が行う行為の結末をよく考え、対人関係では誰が信頼できる人なのか、正しく判断し責任を持っていくことが求められています。

一方で、皆さんが本当に困った時には、一人で悩まず相談機関を見つけて相談し悩みを吐き出してください。社会にはいろいろなセーフティーネットがあります。必ず力になってくれることと思います。

そこで、私から皆さんに餞（はなむけ）の言葉を一つだけ送ります。それは、「ブーカ」の時代に対応できる人間になり続けるということです。この言葉は、私が本校に着任してはじめてあいさした際に皆さんにお話した言葉です。覚えているでしょうか。ブーカとは、日本語で変動性、不確実性、複雑性、曖昧性を示す英語の頭文字をとった言葉で、これからの時代の特性を表しています。

変動性とは、現代においてテクノロジーの進化や、それに伴って様々な価値観や社会の仕組み、人々のニーズなどが変化していくことを指します。短期間で自身が置かれた状況が変わることもあるでしょう。将来の予測が難しくなっています。

不確実性とは、地球の温暖化に伴う気候変動や新型コロナウイルス感染症のような未知の疾病など、唐突に訪れる問題を予測することは困難な状況が訪れることを指します。将来の予測をすることが困難になる今、万一の状況に対応することができるよう「備え」の発想をもって臨むことが期待されます。

複雑性とは、私たちの生活に関わる様々な事象や案件がグローバル化したことにより、考え方や行動が簡単に決定でないことを指します。場所により習慣や常識、ルールなどが異なります。ある場所では成功したとて、別の場所では通用しなかったりすることがあります。このようにグローバルな環境では、その場の

常識などさまざまな要因が絡み合って、状況を複雑化していくことから、閉ざされた世界または隔離された狭い視野で考えるのではなく、常に広い視野で考え、その場と状況にあわせた柔軟で臨機応変な対応が求められる事が求められます。

曖昧性とは、これまで述べた変動性・不確実性・複雑性がさらに様々な場面で絡まり複雑に組み合わさることで、因果関係が不明で、前例のない出来事が増える中、過去の実績や成功例に基づいたやり方では通用しない、曖昧な世界へと突入していることを表します。

変化や進化の激しい未来を生き抜くスキルを身につけるためには、まずは自分が持っていない情報に触れ、異なる文化や歴史を持つ人々や、異なる価値観を持つ人々と交流し対話し続けることが求められます。そのことが自分たちのやり方の課題や解決に向けたヒントとなり、これから皆さんが歩む人生のステージでの新たな出会いや理解にもつながります。皆さんなりの根柢をしっかりとって歩める存在となってください。

三十九回生の皆さんはこれからの社会を担っていく人たちです。この甲高でその基礎になる力をすでに身につけていると思います。皆さんのこの先の活躍に期待しています。皆さんの輝かしい前途を祈念して、式辞といたします。

令和六年二月二十九日
兵庫県立西宮甲山高等学校長
田中 優至